

2024年2月27日

東京女子大学データサイエンス副専攻 コア科目について

評価者氏名 高橋尚子

当該プログラムが、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することができるかについて、以下のとおり評価いたします。

一教育内容・手法について

教育手法については、講義科目だけでなく、実習科目を必修に課していること、LMSを使った学生への教材配布や連絡、スライド教材、実習素材など、適切と評価します。

教育内容については、数理・データサイエンス(DS)・AIの全体像を理解し、基礎的知識を習得するための必要な科目は、概ね揃っていると評価します。

・ただし、「文理融合データサイエンスIIA/B」は、「文理融合データサイエンスI」とシラバスで比較すると、難易度が急に高くなるように感じられます。特に、「自己点検・評価報告書」の学生アンケートのコメントにもあるが、BYODを必須としているにも関わらず、仕様等について触れていないので実習に支障がないか。また「Rの習熟は講義学ぶので必要ない」としているものの、シラバス上では1回目から具体的な内容が書かれているので、学生の理解度に差異が生じていないか。実際の授業では、IからIIA、IIBと系統履修になっているので、より丁寧な指導や配慮がされることを望みます。

・履修要綱抜粋(6/8、p229)に「データサイエンスを学ぶにあたって役立つ科目の紹介」が記載されています。これは、情報系科目を得意としない学生にも、履修を促し、理解を深めるアドバイスとしてよいものです。

・「基礎(第二区分)」の科目は、数学系として明確ですが、できれば「統計」を含む科目群から選択必修2単位のような指定をしたほうが、より良いように思います。

・「応用(第三区分)」の科目は、それぞれの特徴を表していますが、できれば学科を超えて履修できる科目群を、それぞれの系統で選択必修2単位のような指定をしたほうが、より良いように思います。

東京女子大学

AIデータサイエンス教育研究センター

—当該科目により期待される学修成果について

・必修としている「コア科目（第一区分）」の科目全体が、若干情報技術の習得に偏っているようですが、「情報処理技法（リテラシ）」科目から「文理融合データサイエンス」科目へ積み上げて系統履修をすれば、数理・DS・AIに必要な知識・スキルは修得できると考えます。

・専攻ごとに与えられたデータから目的に合わせた処理や分析を行う力までが身につくことを期待したいです。また、文系が強めの文理融合でも、社会課題の解決に対して新たな価値を見出す意識を持てるように学修してもらいたいです。単に、認定をもらうための勉強だけにとどまり、実務に役立てることができないか心配です。

—その他

・5番の資料、および「自己点検・評価報告書」p2に「オープンバッジを授与した」とあり、履修後に認定申請など学生の負担がないようにされているのは評価できます。また、2024年度以降の教育内容について、改善点が具体的に示されているので、多くの学生が履修することを期待したいです。

・可能であれば、応用の最後に、学科に依存しない演習（アクティブラーニングやグループ学習）により、身近なテーマを取り上げた課題解決の提案などができると、もっと実践的なカリキュラム体系になると思います。それにより、貴大学が掲げる教育理念に沿う学生が育成できるように思います。

以上